

海外安全対策情報第2四半期（2016年4月～6月）

1. 社会・治安情勢

現在、犯罪・暴動等の具体的な情報はないものの、不測の事態を避けるため、集会等が行われている場所にはなるべく近づかないようにし、もし異常を感じたら、速やかにその場から立ち去るようにすることが望ましい。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

フィジー警察によると、2016年第2四半期（4月～6月）の犯罪認知件数は5,077件であった。これは、2015年同時期と比較して約10%減少しているものの、これまでと同様に十分な注意が必要である。なお、2015年全体の犯罪認知件数は約2万900件であり、過去3年連続で2万件を超えて高い水準を維持している。フィジー警察による巡回の増加や取締りの強化が実施されてはいるが、犯罪の抑制には繋がっていないため、これまで以上に危機意識をもって行動する必要がある。

フィジーで発生する犯罪の約5割がひったくり、スリ等窃盗や侵入強盗等となっており、引き続き大使館にも邦人の窃盗被害の報告が多数寄せられている。特に、カメラや携帯電話等の貴重品は人目に触れないように持ち歩き、マーケット、バスターミナル、イベント会場周辺等混み合う場所ではひったくりやスリに十分注意する必要がある。また、邦人住居への侵入強盗事案も発生していることから、確実な鍵の施錠を実施するとともに、周囲の状況、警備員の配置、扉や窓の安全等の確認を怠らないように十分注意する必要がある。その他にも、邦人がよく利用するスーパーの駐車場にてタイヤのパンク等を指摘され、車のロックを解除した途端、車両内やトランクから荷物を盗まれるケースや短時間の駐車にも関わらず窓ガラスを割られての車上荒らしも発生していることから、車の運転の際にも十分注意する必要がある。

なお、昨年12月以降、クレジットカードやデビットカードのスキミング被害が相次いでいる。ホテルや商店、銀行のATMでカードを使用した数日後に国内や海外でカードが悪用される被害が急激に増加していることから、各種支払いの際は可能な限りカードを使用せず現金のみを利用することが望ましい。

3. テロ・爆弾事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

以上